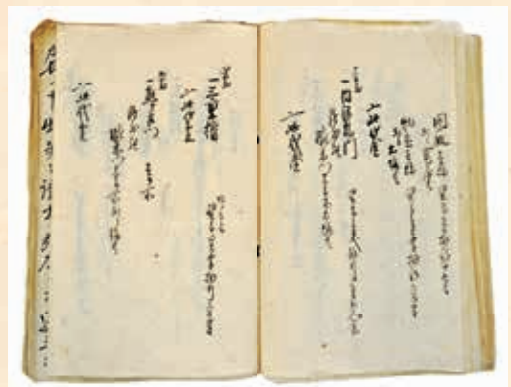


旧忍城建物入札番号記、忍城競売の通知書、行田市郷土博物館所蔵

明治時代になると城郭は新政府の軍事部門を担う兵部省の所管となり、同省が陸軍省と海軍省に分かれると陸軍省の所管となりました。兵部省は関東地方の城郭の現況調査に着手し、続く陸軍省も全国の城郭調査を実施しました。そして、軍事施設として使用する城郭とそれ以外の城郭を区別し、そこで不用とされた城郭を大蔵省へ引き渡すことで調整を進めました。

明治6年(1873)1月、太政官から陸軍省と大蔵省に存城と廃城に関する決定が通達されました。忍城は兵部省の調査の時点で、城の周囲がごとく沼地で土地が湿っており、水害が多いことなどの理由から、廃城の方針だったようです。正式に廃城が決定すると、大蔵省に移管され、城内の建造物は埼玉県によって競売されることとなりました。今回紹介する資料はその際に周辺の町村に出された入札の通知書です。

入札は埼玉県の成立に伴い設置された行田支庁という県の出張所で行い、希望者は明治6年2月16日から20日までの間に見積書を提出するように各町村に通達されました。城内の建物の明細には、一番から十八番までの番号がつけられ、建物の名称とともに梁間と桁の長さ、付属する門や塀などが記されています。大手門や沼橋門、成田門など大型の櫓門は付属する冠木門や塀と併せて、それぞれ単独での入札となりました。城内にあった櫓三棟のうち、三重櫓と二重櫓一棟は単独での入札となりましたが、武器庫として使用されていた二重櫓は同じく武器庫だった土蔵など9棟と併せて入札されました。忍城への入り口に設置された長野口門や持田口門など16の門は一括での入札となりました。



旧忍城建物入札番号記

入札には58人が参加し、落札額の総額は2千334円余りとなりました。どの建物がいくらかで落札されたかは、忍城御三階櫓2階の展示室にパネルで紹介していますので、ぜひご覧ください。

(郷土博物館 鈴木紀三雄)

NPO法人 CILひこうせん

地域で生活する障がいのある方に、自立生活や社会参加の促進や支援を行い、誰もが自分の夢を実現できる社会の構築を目指し、活動しているのがNPO法人CILひこうせんです。

同法人は平成16年に発足し、現在会員は約130人。活動の幅は年々広がり、自立相談をはじめ、家事・介護支援などのヘルパー派遣事業、多機能型障害福祉サービス事業所やグループホームの運営など、多岐にわたっています。また、アート制作を通じて障がい者の社会参加や地域の活性化にも積極的に取り組んでおり、その代表格である「忍町アートギャラリー」では、会員の作品展示やワークショップなどを行い、「日本で一番アートな町」を目指しています。

今年6月には新たな活動拠点を向町に開設し、活動にますます熱が入る同法人。みんなの夢の実現に向け、「ひこうせん」はこれからも飛び続けていくことでしょう。

【理事長】田島 隆宏 【電話番号】555-1100

つながる ひろがる みんなのチカラ

～市民公益活動団体紹介～⑨



向町に開設した新本部棟内での活動の様子

今月の表紙

子どもの知的好奇心を刺激する学びの場を提供することを目的に、毎年開催されている子ども大学ぎょうだ。7月29日に行われた第3回の講義では、行田の街並みの変化と足袋作りについて学びました。参加した子供たちは、「足袋とくらしの博物館」で足袋の製造工程を見学。職人が手際良く足袋を縫い上げる様子を、子供たちは真剣な表情で見つめていました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をダイジェスト版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています